

自然再生に関する海外の動向調査

Research on Global Trend in Nature Restoration

主席研究員 舟橋 弥生

1. はじめに

河川の自然再生は、各国で取り組まれており、特に、我が国と同様の気候条件にあるアジアの国々での取り組み状況は、今後の我が国での自然再生を検討する上では、特に参考になるものである。

そのための情報収集の一環として、平成28年10月19日(水)～10月21日(金)に韓国(テグ市)に出張し、韓国水フォーラム(Korea Water Forum)が主催する国際会議に参加し発表を行うとともに、会場での発表の聴講・意見交換を通じて、海外における自然再生の動向について把握した。

2. 調査の概要

2-1 会議の概要

以下の会議に参加し、発表・聴講・意見交換を通じて海外の動向を把握した。

会議:「韓国国際水の週間2016(KOREA INTERNATIONAL WATER WEEK 2016)」

目的: 持続可能な開発のための水に関するパートナーシップ構築に向けて、関係者による会議が行なわれるとともに、複数のテーマセッションを開催。

日時: 平成28年10月19日(水)～21日(金)

場所: テグ市、EXCOセンター

主催: 韓国水フォーラム(Korea Water Forum)

2-2 セッションの概要

会議においては、8つのテーマセッションが設けられた。セッションの構成から、韓国においても我が国と同様に「持続可能な開発目標」や「気候変動と水管理」等の課題に強い関心が寄せられていることが伺われた。

表-1 テーマセッション

Session1
Sustainable Development Goals: Partnership and Implementation of the SDGs
Session2
Capacity Building: On-line & On-site Convergence Capacity Building for Global Water Issues
Session3
Water Cooperation: Experiences and Strategies
Session4
Water-Energy-Food Nexus for Water Security and SDGs Achievement in Asia
Session5
Examining the links between Integrated Water Resources Management and Smart Water Management
Session6
Healthy urban where people and water ecosystem live together
Session7
Climate change and Water management
Session8
Water information beyond data and knowledge: Asia Dynamic Hub for Water. The power of Information



写真-1 会場(テグ市、EXCOセンター)

このうち、今回参加したテーマセッション6「人と水の生態系が共生する健康的な都市((Healthy urban where people and water ecosystem live together))」は20日の午後開催され、4名の講演者からの講演と講演者が参加したパネルディスカッションが開催された。セッション参加者は約30名であった。総合司会のKonkuk UnivのHwang Soon Jin教授から挨拶の後、以下のトピックが発表された。講演者4名のうち、韓国国内から2名、海外から2名(カナダ、日本)という構成になっており、アジアのみでなく全世界的な観点からの発表、それに続くパネルディスカッションが行われた。

- ①水のサイクルの再生と都市域の生態系の変化について
(Korean Society on Water Environment の Kyung-ho Kwon 氏)
- ②新しい都市のあり方と湿地の再生について
(UNU-INWEH の Guppy Lisa 氏)
- ③日本における河川の自然再生の動向について
(リバーフロント研究所 舟橋弥生)
- ④水に関する生態系の戦略的な再生
(Konkuk Univ の LEE Sang woo 教授)



写真-2 テーマセッション (司会)



写真-3 テーマセッション (各者講演)



写真-4 パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、セッションのテーマに関する意見、自らの最近の取り組みなどについて意見交換が行なわれた。

日本の取り組みについて、会場からは、「日本の先端の自然再生の取り組み状況」「自然再生のモデル化」について質問をいただき、自然再生に関する強い関心が伺われた。

今回の発表、パネルディスカッションを通して、韓国からの発表では、自然再生等に関するプロジェクト、システムの提案がされているが、具体化に向けては引き続き検討を行う必要があると思われた。また、カナダからの発表では、湿地の再生に関する世界的な取り組み状況について説明されたが、それぞれの地域特性に応じた取り組みを行う必要があると思われた。わが国の取り組みも含め、いずれもさらなる具体化・地域特性を考慮した検討を行うことにより充実した取り組みになると思われる。

2-3 関連イベントの状況

会議終了後に、同会場内で行なわれていた韓国の水に関する企業展を視察した。

会場内には、63 ブースが設けられ、企業による積極的な説明が行われていた。ここでも水、自然再生についての関心の高さが伺われた。

3. おわりに

我が国と同じアジアに位置する韓国においても、自然再生に関しては、同様の課題があり、強い関心を持ちながら検討が進められていることが明らかとなった。今後も情報収集・提供を行いながら、相互に自然再生の取り組みを進め、高度化していくことが望ましい。



写真-5 企業展